

沼沢湖流入河川のヒメマスそ上尾数調査及び年齢査定

1. 背景

沼沢湖(大沼郡金山町)のヒメマスは、沼沢漁業協同組合が実施している種苗放流によって資源が維持されています。

しかし、2022～2023年は、全国的な種卵不足により種苗放流ができず、ヒメマスの資源量低下が危ぶまれています。ヒメマス資源を持続的に利用するため、沼沢湖のヒメマス資源状況や自然産卵の実態を把握する必要があります。

その一環として、沼沢湖唯一の流入河川である前ノ沢において、ヒメマスそ上尾数調査と採捕したヒメマスの年齢査定を行いました。



図1 前ノ沢へのヒメマス放流

2. 材料と方法

2012～2024年の9～11月に、前ノ沢をそ上するヒメマスを目視し、そ上盛期におけるヒメマスのそ上尾数を集計しました。

2024年10月7日に前ノ沢にそ上したヒメマスを採捕し、採卵を行った後、全長測定と耳石による年齢査定を行いました。

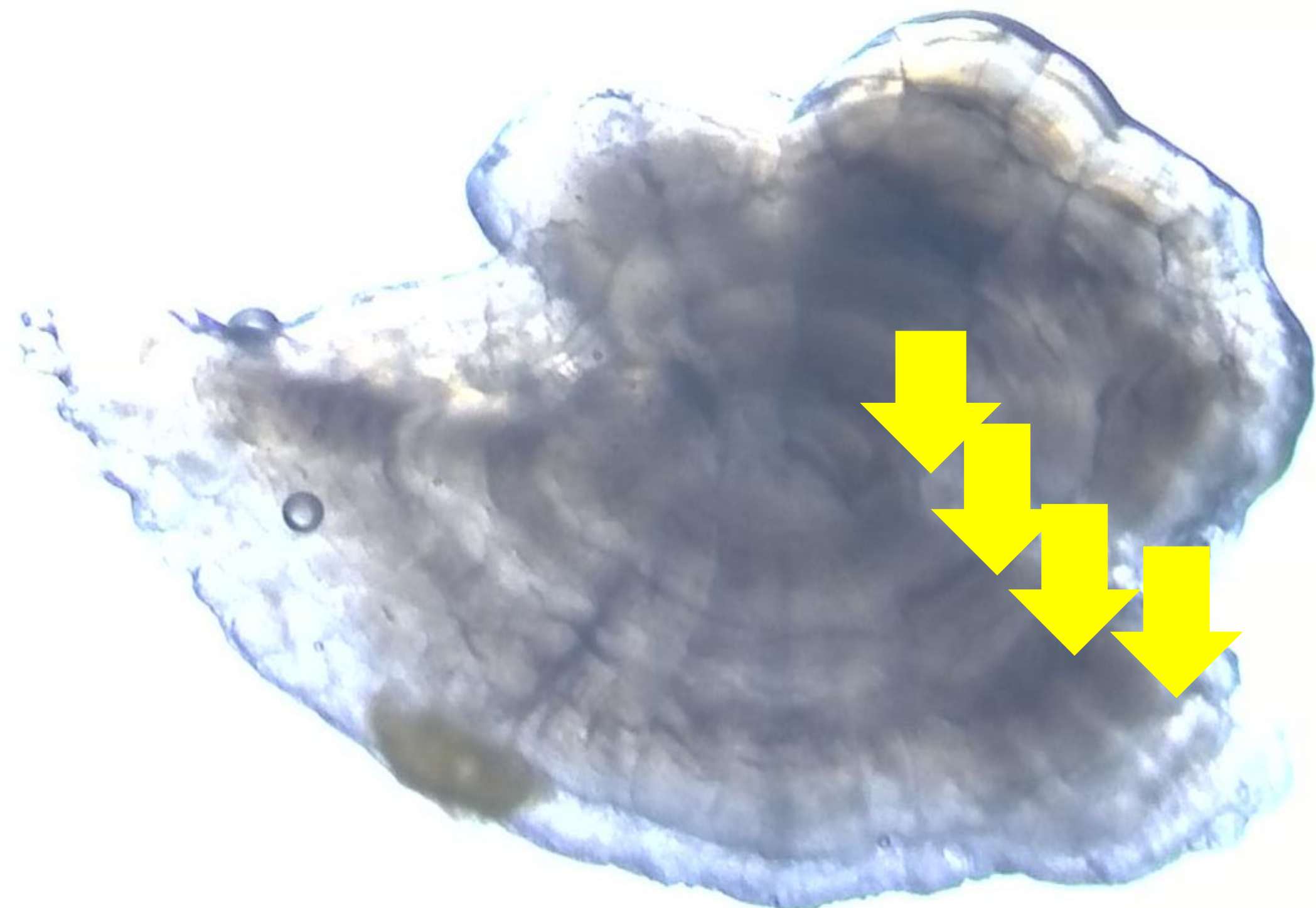


図2 ヒメマスの耳石
(2024年10月7日 メス 4歳魚)

3. 結果

- 2024年のそ上盛期におけるヒメマスそ上尾数は123尾と、2023年度の約5分の1でした。
- 2024年の10月7日にそ上したヒメマスを採捕し、オス29尾、メス94尾について、耳石による年齢査定を行った結果、約8割が4歳魚(2020年生まれ)であり、3歳魚(2021年生まれ)も確認されました。

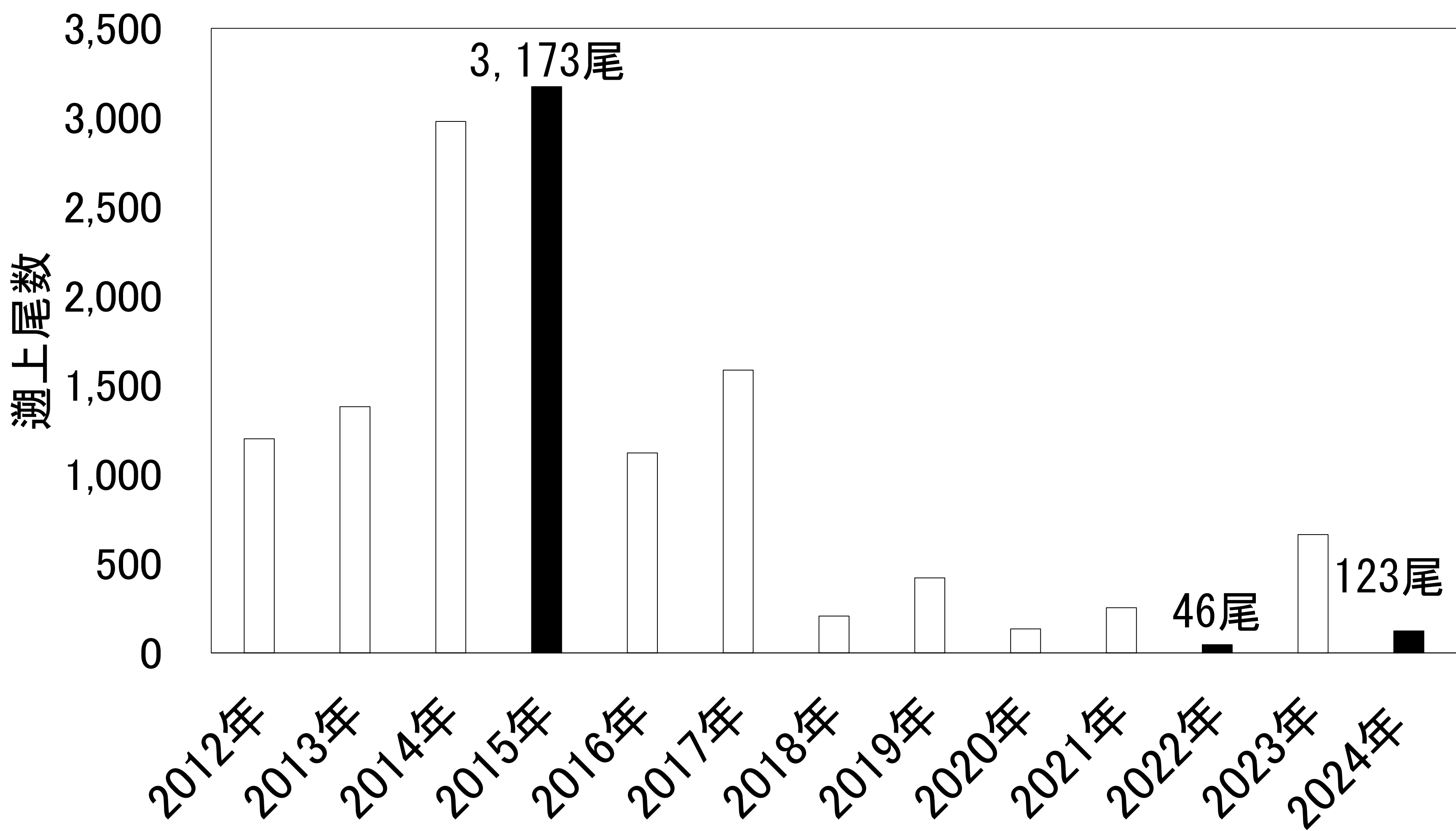


図3 そ上盛期における前ノ沢のヒメマス遡上尾数

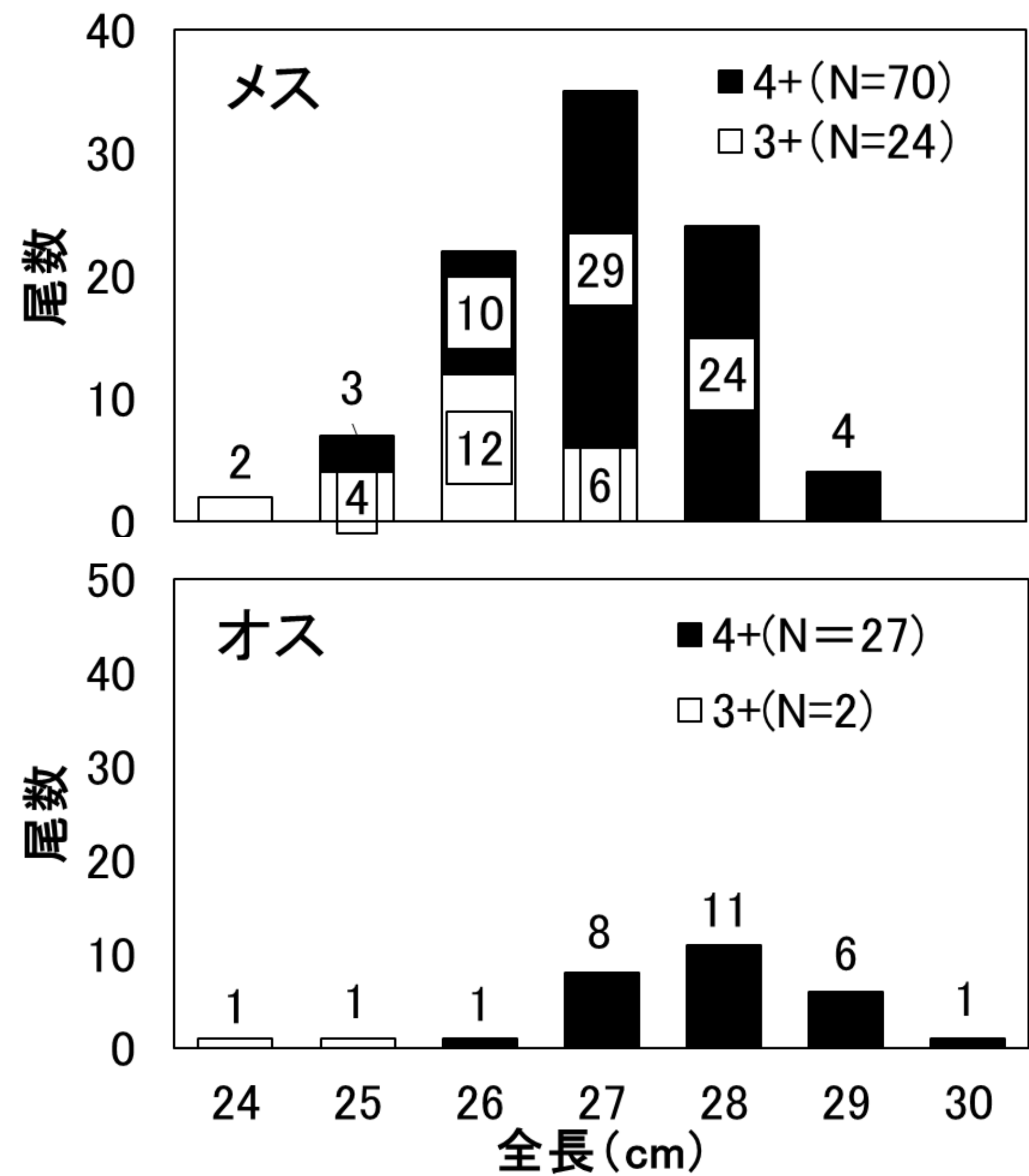


図4 2024年10月7日に採捕したそ上ヒメマスの年齢別全長組成

4. まとめ

- 前ノ沢のヒメマスは、2017年以降、遡上尾数が1,000匹未満となっています。
- 2024年10月7日に前ノ沢で採捕したヒメマスは4歳魚が主体となっており、2020年に放流された稚魚がそ上したものと考えられます。
- 沼沢湖では、2022～2023年は種苗放流が実施されていないことから、その影響について注視していく必要があります。